

教材冊子 「あの日風しもの町で 起きたこと」

第4回放射線防護の民主化フォーラム

2026年6月27日

郡山市けんしん郡山文化センター

モニタリングポストの継続配置を求める市民の会・三春
大河原さき

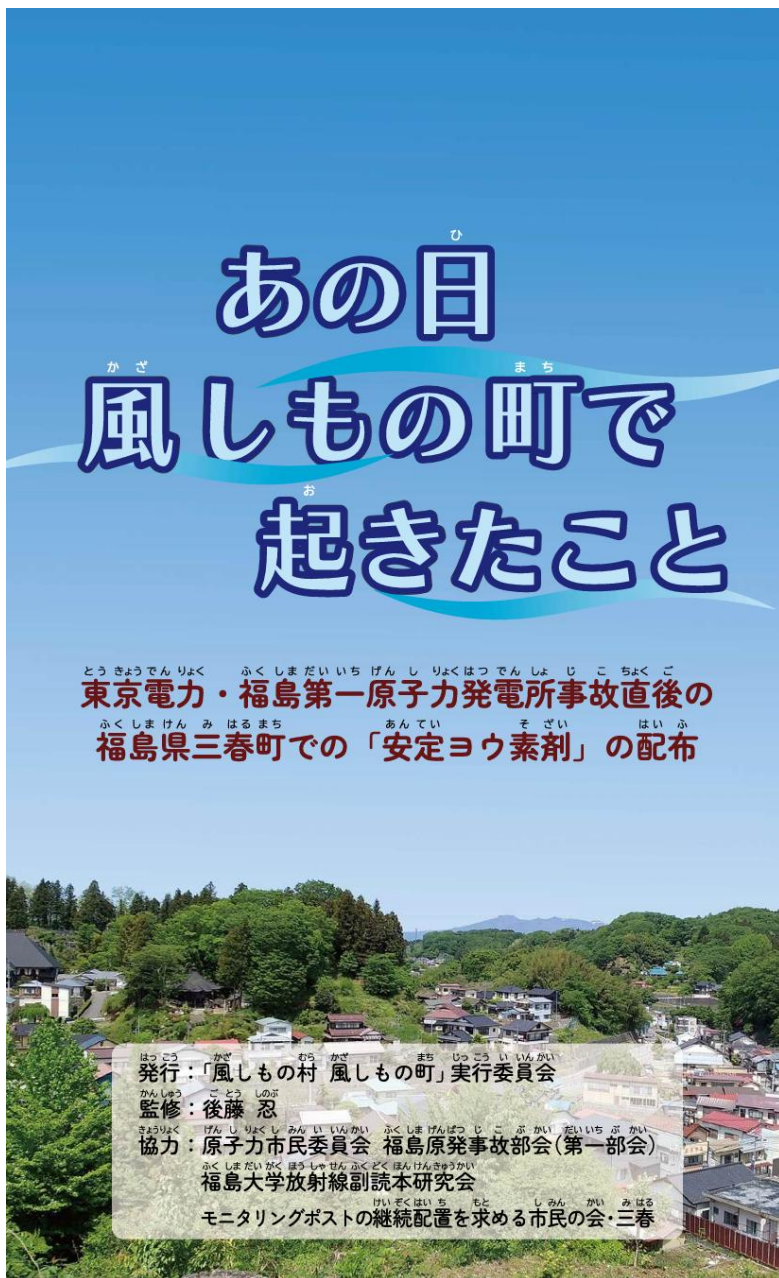
経緯

- 2024年8月に、三春町で「風しもの村ーチェルノブイリスケッチ」絵画展や原爆展、「減思力の教訓を学ぶ」展、パネルディスカッションなどを開催。
- 東電福島第一原発から西に50キロ離れた三春町も、チェルノブイリ原発事故でのウクライナやベラルーシと同じように、原発の爆発で風下の町となったが、町独自の判断で甲状腺がんを予防する安定ヨウ素剤を町民に配布し服用指示したことを、パネルにして展示した。



- 2025年、このパネルデータを基に放射線教材冊子を発行。小学生でも読めるようにA4判、総ルビ、フルカラーの14ページ立て。
- 福島県内の小中高の学校や特別支援学校の図書館、市町村の図書館、国会図書館などに合わせて813冊を寄贈。
- 印刷代などの経費は、原子力市民委員会やパルシステム生協連合会の助成金を活用し、頒布価格を1冊100円に。
- 各地の集会で販売したり、全国で脱原発を闘う個人や団体に見本を送ったりしたところ、注文が相次ぐようになり、現在までに6000冊ほどが全国各地に広がった。

内容



あの日 風しもの町で 起きたこと

とうきょうでんりょく ふくしまだいいちげんしりょくはつでんしょじこちよぐ
東京電力・福島第一原子力発電所事故直後の
ふくしまけん みはるまち あんてい そざい はいふ
福島県三春町での「安定ヨウ素剤」の配布

はつこつ かざ ぐら かざ まち じつこう いんかい
発行：「風しもの村 風しもの町」実行委員会

かんしゅう ごとう しゆふ
監修：後藤 忍

きょうりょく げんしりょくしあん いんかい ふくしまげんぱつじこぶかい だいいちぶかい
協力：原子力市民委員会 福島原発事故部会(第一部会)

ふくしまだいがく ほうしやせんふくどくけんけんきゅうかい
福島大学放射線副読本研究会

けいそくはいち もと しゆん かい みはる
モニタリングポストの継続配置を求める市民の会・三春

はじめに

この本は、2011年3月に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故の際に、福島県三春町で主体的に行われた「安定ヨウ素剤」配布の事実を伝えるために書かれました。

三春町が独自の判断で適切な時期に「安定ヨウ素剤」の配布を実行したことは、地方自治体としての主体性と決定権を行使して、住民の命と健康を守ることを最優先に考えて行動したもので、後世に継承すべき事例です。しかし、残念ながら文部科学省の放射線副読本や福島県教育委員会の資料などの公的な教材では記載されていません。

この本では、あの日三春町で起きたこと、三春町民の証言、「安定ヨウ素剤」の効用や服用法などが書かれています。一人でも多くの方に、この本を読んでいただき、三春町の出来事を伝えていただけることを願っています。

目次

はじめに	1
1 三春町の「安定ヨウ素剤」配布の事実を伝える	2
2 三春町の「安定ヨウ素剤」配布までの主な経緯	3
3 避難者が押し寄せる	4
4 風向きはどっちだ？	5
5 「安定ヨウ素剤」なぜ飲むの？	6
6 「誰の指示で配ってるんだ！」	7
7 三春町民の証言	8
8 三春町はどうして「安定ヨウ素剤」配布ができたのか？	9
9 三春町での出来事は公的な教材に載っているの？	10
10 福島第一原発事故を教訓に	11
おわりに	12
資料：安定ヨウ素剤配布に関する三春町、国、福島県の対応	13

はじめに

- この本は、2011年3月に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故の際に、福島県三春町で主体的に行われた「安定ヨウ素剤」配布の事実を伝えるために書かれました。
- 三春町が独自の判断で適切な時期に安定ヨウ素剤の配布を実行したことは、地方自治体としての主体性と決定権を行使して、住民の命と健康を守ることを最優先に考えて行動したもので、後世に継承すべき事例です。
- しかし、残念ながら文部科学省の放射線副読本や福島県教育委員会の資料などの公的な教材では記載されていません。
- この本では、あの日に三春町で起きたこと、三春町民の証言、安定ヨウ素剤の効用や服用法などが書かれています。一人でも多くの方に、この本を読んでいただき、三春町での出来事を伝えていただけることを願っています。

もくじ
目次

はじめに	1
1 三春町の「安定ヨウ素剤」配布の事実を伝える	2
2 三春町の「安定ヨウ素剤」配布までの主な経緯	3
3 避難者が押し寄せる	4
4 風向きはどっちだ？	5
5 「安定ヨウ素剤」なぜ飲むの？	6
6 「誰の指示で配ってるんだ！」	7
7 三春町民の証言	8
8 三春町はどうして「安定ヨウ素剤」配布ができたのか？	9
9 三春町での出来事は公的な教材に載っているの？	10
10 福島第一原発事故を教訓に	11
おわりに	12
資料：安定ヨウ素剤配布に関する三春町、国、福島県の対応	13

4 風向きはどっちだ？

3月12日から、保健師や医師チームが避難所の巡回を始めました。大熊町や富岡町の職員が、希望する避難者に「安定ヨウ素剤」を配布しているのを見て、町としてヨウ素剤の情報収集を始めました。3月13日の午前から、大熊町と富岡町の職員が連絡責任者として常駐することになりました。大熊町職員は原発事故や放射線の知識を基に、情報を収集し三春町にも提供してくれました。

三春町民の佐久間寛さんから、チヨルノービリ(チェルノブイリ)原発事故後に購入した放射線検知器 R-DAN が高い測定値を示していると通報があり、町は防災行政無線で「不要の外出を避け、雨対策やマスクの着用」を注意喚起しました。

「安定ヨウ素剤」は適切な時間帯に服用しなければならないので、原発の爆発時間・風向き・風速を調べて服用時間を割り出す必要があります。三春町は風向きを調べた結果、14日は北風で、15日は東風が変わり、ブルーム(放射能雲)は、西に位置する三春町に向かうことがわかりました。

正確な風向きを知るために、町は吹き流しを設置しました。吹き流しは、15日に東風を指し示したため、13時から「安定ヨウ素剤」の配布と服用の指示を町長が決しました。



アル ダン ほうしゃせんけんちき R-DAN 放射線検知器
出所：佐久間淳子氏提供



さわいしちく せっち ふ なが 沢石地区に設置した吹き流し
出所：『三春“実生”プロジェクト』の活動記録』

R-DAN：1986年4月のチヨルノービリ(チェルノブイリ)原発事故後、同年8月に日本で開発された放射線検知器を使った「放射線災害通報ネットワーク」の略称。

5 「安定ヨウ素剤」なぜ飲むの？

1986年のチェルノブイリ(チェルノブイリ)原発事故では、事故後に小児甲状腺がんが増え、放射性ヨウ素が甲状腺がんの原因とされました。放射性ヨウ素は甲状腺に溜まり、内部から細胞を被ばくさせ、がんの原因となります。福島第一原発事故後に行われている県民健康調査甲状腺検査では、350人(2024年9月30日現在)が、甲状腺がんとその疑いという結果が出ています。事故前は、100万人に1人が2人の割合でした。

安定ヨウ素剤の対象と服用量	対象	服用量
生後1カ月未満	ゼリー剤小	(16.5mg) 1包
1カ月以上～3歳未満	ゼリー剤大	(32.5mg) 1包
3歳以上～13歳未満	丸剤	1錠 (50mg)
13歳以上	丸剤	2錠 (100mg)

服用しない場合 服用した場合

放射線ヨウ素 ●
安定ヨウ素剤 ●

甲状腺

出所：中日新聞 2022年10月4日

甲状腺はホルモンを作る重要な臓器です。甲状腺はヨウ素を取り込みますが、その際、放射性ヨウ素と安定ヨウ素は化学的性質が同じなので甲状腺は両方を取り込みます。甲状腺を安定ヨウ素で満たしておけば、放射性ヨウ素が甲状腺に取り込まれにくくなります。

放射性ヨウ素の影響を最も受けやすいのは胎児、乳幼児、未成年なので、「安定ヨウ素剤」は妊婦、授乳婦、未成年の服用を優先するのが望ましいです。「安定ヨウ素剤」は副作用がほとんどありませんが、ヨウ素過敏症や甲状腺疾患の方は医師の相談が必要です。

「安定ヨウ素剤」は、身体の中に放射性ヨウ素が入ってくる直前か2時間後くらいまでに服用すれば、90%以上の抑制効果があります。原子力事故があったとわかったらすぐに服用する方がよいので、手元に「安定ヨウ素剤」を用意しておくのが安心です。

安定ヨウ素剤を飲むタイミングによる効果の違い	
経過時間	効果
放射性ヨウ素の取り込み24時間前から取り込み後2時間後まで	90%以上抑制
取り込み後8時間後まで	約40%抑制
取り込み後16時間以後	ほとんど効果なし

出所：原子力規制庁『安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって』をもとに作成

福島第一原発事故においても、放射性ヨウ素を含む放射性物質が広く拡散しました。政府は放射性ヨウ素の被害を予防するため「安定ヨウ素剤」を服用するよう指示することになっていましたが、備蓄があったにもかかわらず、服用の指示は出ませんでした。わずかに三春町、双葉町、富岡町が独自で指示を出しましたが、全体では1万人程度しか服用していません。

出所：NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金 ウェブサイト『原発事故と甲状腺がん』より要約

6 「誰の指示で配ってるんだ！」

福島県は爆発のたびに、「安定ヨウ素剤」の服用について現地対策本部に問い合わせをしていましたが、指示がなかったため、各自治体に服用指示を出しませんでした。

三春町は福島県が「安定ヨウ素剤」40万錠を確保していることを確認し、福島県に問い合わせたところ、「数がわかって取りに来るなら渡す」とのことで、町職員が40歳未満の町民7248人、3303世帯分を受け取りに行きました。

3月15日13時に、三春町は町民に「安定ヨウ素剤」を配り、服用を指示しました。

ところが、16時頃、福島県の地域医療課より「誰の指示で配っているんだ。医師の立ち合いが必要だ」と電話がありました。三春町は「マニュアルには医療関係者の立ち合いとあるので、保健師や看護師でも問題ない」と答えたと、回収命令を出すというので、「既に服用している人もいるので不可能だ」と答えました。

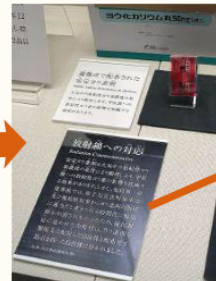
その後、福島県から「返す必要はないが、配った時の状況だけ教えてほしい。今後もし避難する必要が出てきたら、再度ヨウ素剤を渡す」と電話がありました。

東日本大震災・原子力災害伝承館 安定ヨウ素剤配布に関する説明文の変更

開館当初の説明文は「大気中の放射性ヨウ素濃度の条件により服用します。

甲状腺への放射性ヨウ素の影響を低減する効果があります。」と、まるで他人ごとのような記述のみでした。

批判を受けて、その後、国会事故調の報告書を引用する形で、「原子力災害対策本部及び福島県知事からヨウ素剤の服用に相当だと考えられる時間内に服用指示が出されなかった」などと、福島県の責任に関する説明が加えられました。



放射線への対応
Radiation Countermeasures
安定ヨウ素剤は大気中の放射性ヨウ素濃度の条件により服用します。甲状腺への放射性ヨウ素の影響を低減する効果があります。しかし、福島第一原発事故では、原子力災害対策本部及び福島県知事からヨウ素剤の服用に相当だと考えられる時間内に服用指示が出されなかったため、住民対応に遅れた市町村は、ヨウ素剤を服用又は配布した自治体と配布せず指示を持った自治体に分かれました。
(出典：国会事故調報告書)

安定ヨウ素剤に関する「東日本大震災・原子力災害伝承館」での展示

出所：後藤忍氏提供

7 み はるちようみん しようげん 三春町民の証言

とうじ じゆうさう けいけん み はるちようみん しようげん あつ
当時の状況や経験について、三春町民の証言をいくつか集めました。



まち ぼうさい むせん く かえ そざい かくよう うなが
町の防災無線で繰り返しヨウ素剤の服用を促していた。



くちよう けん ちようみん みなさま くば あんてい そざい
区長だったので1軒ずつ「町民の皆様へ」のチラシを配った。すぐに「安定ヨウ素剤」
こうりゅうかん と い こえ
を交流館に取りに行くように声をかけた。



ぼうさい むせん の い もら の あと
チラシと防災無線ですぐに飲むように言っていたので、貰ってすぐに飲んだ。後
から問題になったと覚えているが、ちょうど良いタイミングだと分かって良かった。



あに いっしょ くすり もら い の き の ならまだ早かったみ
兄と一緒に薬を貰いに行き、すぐ飲んだ気がするが、飲んだらまだ早かったみ
たいなことを言われた。仕事をしていて、帰宅するように言われて家にいた。



くすり と い なんと ぼうさい むせん く かえ の よ
薬を取りに行き、何度も防災無線で繰り返していたのですぐに飲んだが、良かつ
たのかなと疑問もあった。放射線の影響なのか、4歳の姪と自分は5月の連休あ
けまで腹の調子が悪かった。テレビ番組でヨウ素剤の事が話され、三春は本当に
はら ちようし わる ばんぐみ そざい こと はな み はる ほんとう
良いタイミングで飲んだという事が分かった。



さい こ の ふ あん じ ぶん の
4歳の子に飲ませるのが不安で、まず自分が飲んでみた。
あじ 味もなにもなかった。子どもには、けっきょくこの
結局怖くて飲ませられなかった。



かぞく だいじゆうぶ はな あ すうぶんご せかい
家族とここにおいて大丈夫かなと話した。数分後にはこの世界がどうしようもな
くなるかもしれない…と、パニックを起こして号泣したのを、母がなだめてくれて、
そういえば、薬（安定ヨウ素剤）も飲んだ。その後、学校が閉鎖され、「外で遊
んではいけない」と学校からも家からも言われた。
さいかどう ぎろん なた げんぱつじ こ お ひなん くる かか
再稼働の議論もあるが、再び原発事故が起き、同じように避難の苦しみを抱える
ひと ふ かくしま きょうくん
人が増えてしまったら、福島のことを、教訓になっていないことになる。「自分ごと」
とら ひと ふ
と捉える人を増やしたい。

安定ヨウ素剤配布にあたって

- ・三春町では約60%が安定ヨウ素剤を服用したとされているが、県民健康調査甲状腺検査の先行検査で、1名が小児甲状腺がんに罹患していることが判明。

しかし、個人情報保護法により安定ヨウ素剤を服用したかどうかの確認はできていない。

- ・放射性ヨウ素による甲状腺被曝防護のために、安定ヨウ素剤を服用するという事前の説明と理解がなければ、服用をためらう人が多いため、事前に説明のうえ個別配布しておくのが最善の方法である。

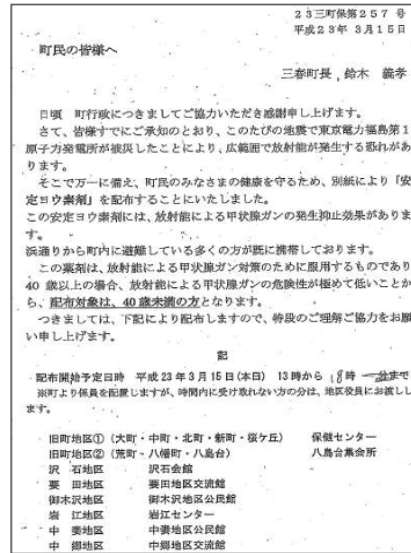
8 みはるまち あんてい そざい はいふ 三春町はどうして「安定ヨウ素剤」配布ができたのか？

避難者と共に来町した職員から、「安定ヨウ素剤」は甲状腺の被ばく軽減に効果があると知らされ、三春町として「安定ヨウ素剤」について調べ、風速、風向きからブルームの到達時刻を割り出すなど、情報収集に尽力しました。

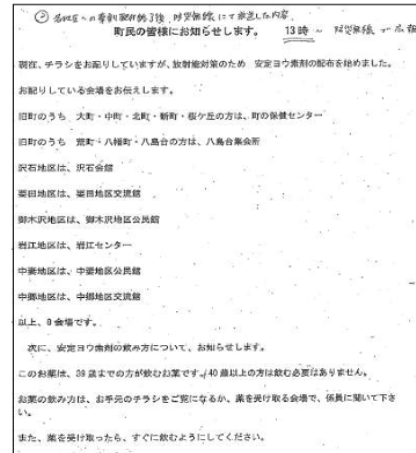
服用して副作用が出るリスクと、服用しなかったために大量の甲状腺被ばくが発生するリスクを考慮し、国や県が混乱している中では、町が最終的な責任をとらなければならないと考え、服用することを判断しました。一刻を争う事態に対して、国や県からの指示を待つのではなく、副町長と全課長による会議を開き、統一的な意思決定をしました。そして、町民の命と健康を最優先に考えて、町長が配布を決断しました。

この決断は、地方自治の理念である「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする」（地方自治法 第1条の2）を全うしたものと言えるのではないのでしょうか。

これは三春町だからできたのではなく、他の自治体でも、住民の命と健康を守ることを最優先し、指示待ちではない、責任を持った自治体運営ができていれば可能だったと考えられます。



みはるまち かちく くちやう つう はいふ つうちぶんし
三春町から各地区の区長を通じて配布した通知文書



みはるまち ぼうさいむせん ないよう ねん がつ にち
三春町の防災無線の内容(2011年3月15日)

出所：内閣府ウェブサイト「政府事故調査委員会ヒアリング記録」(工藤浩之 三春町保健福祉課課長(当時))

9 みはるまち で き こと こうてき きょうざい の 三春町での出来事は公的な教材に載っているの？

もんぶかがくしょうは、2011ねん3がつおひふくしまだいいちげんぱつじこいこうかいねん、2014ねん、2018ねん、2021ねん、2024ねん、**「放射線副読本」**を発行してきました。そのなかには、福島第一原発事故に関する国会事故調や政府事故調の報告書に記載されているような、「安定ヨウ素剤」などの重要な教訓を示すキーワード（他の例：「SPEEDI」、「オフサイトセンター」）や、「原子力緊急事態宣言」、「震災（原発事故）関連死」など被害の深刻さを表す情報は、これまで記載されたことはありません。

ふくしまけんきょういくいんかいがほうしゃせんとうかんしどうしりょうほうしゃせんきょういくほうさいきょういくじつせん福島県でも、教育委員会が「放射線等に関する指導資料」や「放射線教育・防災教育実践事例集」などを作成してきました。放射線教育の実践協力校には、みはるまちみはるしょうがっこう三春町立三春小学校やみはるちゅうがっこう三春中学校も含まれています。その資料には、「三春町に暮らす子どもならではの、持続可能な放射線教育」や「自ら考え、判断し、行動することができる力を身に付けてほしい」など、主体性の育成を重視する記述が見られます。しかし、同様の視点で好事例と言える三春町での「安定ヨウ素剤」配布については、全く記載がありません。

放射線教育 三春町立三春小学校

学校テーマ **21世紀をたくましく生きる子どもの育成**
～三春町に暮らす子どもならではの、持続可能な放射線教育～

キーワード 学校活動 道徳科 総合的な学習の時間 グスタディーチャーター 放射線教育全体構想図

1 はじめに

本校の概要 ～震災当時を振り返りながら～

本校は東京電力福島第一原子力発電所から、直線距離で約49km西に位置しているが、2011.3.11東日本大震災時には、そのさらに南側に位置する郡山市より地震の震度は小さく（郡山市震度震度6弱に対し、三春町大町震度5弱）、市内の建造物や後援施設も郡山市より小さかった。空襲放射線量についても、震災当時から三春町全体で避難を指示されるほどの高い値量は記録しておらず、三春町に在住していた計画の中で、県内外への避難生活をした方々は一部にとどまると聞く。一方三春町は、避難を命じられた大槻町や柳井町、双葉町などに住む方々からの一時避難場所として数多くの避難者を受け入れ、さらには町内各所に仮設住宅を設置した。現在では三春町に住所を移し、第二の故郷として人生を歩んでいる方々も少なくない。平成30年度現在、避難者として本校に在籍している児童は14名あり、前述のように住所を三春町に移した方々の人数を急めれば、その数はさらに増えることになる。本校において行政や町民から多くの協力もあり、震災直後の平成23年度も例年通りの日程で始業式や入学式を実施することができ、翌日には給食までも通常通り再開することができた。その後、夏休み前まで屋外での活動時間が制限される中、日々の教育活動に対し教員によるきめ細やかな配慮のもと、様々な工夫がなされ、子どもたちは毎日充実した学校生活を送ることができた。

学校テーマに込めた思い

避難先に生まれ育った子どもにとって、放射線教育は必要不可欠な学習内容であると捉える。未曾有の自然災害から得られたことは数多く、震災当時、放射線等に対する十分な知識や経験が不足していたことが大きな不安につながってしまったことは否めない。

これからの未来を拓く子どもたちには、予測が困難な時代を 歩 歩 確実に歩み、困難に対してたくましく乗り越えることができるように、自ら考え、判断し、行動することができる力を身に付けてほしいと願う。そのためにも小学校第1学年から第6学年の学習活動に位置付けている放射線教育は必要不可欠な学習内容であり、本校も県内の他の学校同様、福島県教育委員会発行「放射線等に関する指導資料」に基づき、三春町の状況を考慮した放射線教育に取り組んでいる。

みはるちゅうりつ みはるしょうがっこう ほうしゃせんきょういく ほうしん 三春町立三春小学校の放射線教育の方針

出所：『ふくしま放射線教育・防災教育実践事例集』p.14、一部抜粋・一部加筆

10 福島第一原発事故を教訓に

私たちは、福島第一原発事故によってさまざまに辛い体験をしました。誰もが二度と同じ思いはしたくないと思いますが、原子力発電所が動いている状況で、次の事故が起きないとは限りません。今回の福島第一原発事故を教訓にして万が一への備えをしておくことが必要です。

例として、次のようなことが考えられます。

1. 原発事故時の住民の命と健康を、地方自治体としての独立性と決定権を行使することで守ることができるようにする。

- ・何よりも住民の命と健康を守ることを優先する。
- ・緊急時に相談できる体制を組織しておく。

2. 原発事故時の放射能拡散の情報収集について認知し、国に求める他、独自の情報収集方法を確立しておく。

- ・SPEEDIの復活を国に要請する。
- ・原発立地自治体でなくても、原発事業者から事故時の情報を得られる協定を結ぶ。
- ・吹き流しなど、風向きを知るための設備を設置する。

3. 「安定ヨウ素剤」を事前に戸別配布する。

- ・日頃から原発事故時の放射能被ばくについての知識を持つ。
- ・「安定ヨウ素剤」に関する知識を持つ。
- ・戸別配布をして備える。

4. 全国の原子力発電所の停止と廃炉

- ・福島第一原発の現在ある危険について認識する。
- ・茨城、宮城、新潟など近県の原発再稼働の中止を求める。
- ・全国の原子力発電所の停止と廃炉を求める。

教訓は生かされているのか

- 2024年6月 内閣府の防災基本計画修正新旧対照表 第12編 原子力災害対策編 p 35

「地方公共団体は、UPZにおいても、PAZ内と同様に予防的な即時避難を実施する可能性のある地域、避難の際に学校や公民館等の配布場所で安定ヨウ素剤を受け取ることが困難と想定される地域等においては、自らの判断で、平常時に事前配布を行うことができるものとする。」

（新設） 地方公共団体は、原子力災害対策指針等を参考に、安定ヨウ素剤の服用の効果等について住民等へ日頃から周知徹底に努めるものとする。 →原子力規制庁のガイドラインを反映

・ 2026年6月 福島県原子力防災課に問い合わせ

福島県独自の対応策はない。

原発から5キロ圏内（PAZ）30キロ圏内（UPZ）の対策のみ

県の計画書にはUPZ圏外に安定ヨウ素剤は配備されていない。

UPZ圏外には、相変わらず県が配布と服用指示をすることになっていて、三春町が行った適切な配布と服用のタイミングを計る方法は、他の自治体には共有されていない。

冊子の活用

- ① 三春町の小中学校の放射線副読本とすることを、教育長に要請したところ、教科書としては文科省の許可がないと使えないが、防災教育や特別活動として町民の出前授業という形で各学校に提案してもよいという回答があり、この冊子を使った出前授業の企画に取り掛かったところ。
- ② 柏崎刈羽原発の再稼働について、2025年12月の新潟県議会に、原発事故被害者団体連絡会として「福島県の被害者の声を聴いてから審議してほしい」という請願を行い、県議会の常任委員会で口頭陳述した後で、県議にこの冊子を配布した。

反響

- 送付先は福島県内、北海道から沖縄など。全国各地に。
- 学校や市町村からの注文はない。
- 全国各地の原発立地自治体で反対運動をしている団体や個人からの注文が多い。
- 住民の学習会用や、原発立地県や立地市町村の防災担当課にも渡している。
- 行政職員からこういうものがあると助かるという声がある一方、行政からは全く無視されることの方が多い。

- 3度注文してくれた、敦賀市のHさんより最近のメール

「行政に渡したが当面見込みがなさそうなので、住民に近い薬局、薬剤師会へ面会を申し出るも、門前払い。最も大事な任務を見失っているよう。諦めず次の手を試みたく思います」

- 冊子を読んで三春を訪ねてくる県外のグループがある。原発立地自治体ではないが原発事故があれば被災するので、事前に安定ヨウ素剤配布を考えている人たち。

パネルを通じた広がり（パネルの貸し出しもしています）

- 「三春町での安定ヨウ素剤配布の意義を埋もれさせないために、東京・昭島市でも伝えようとしてパネル展が開かれました。
- 特に教育の場で事実がなかったかのように扱われている実態を知らせることに重点を置きました。」
- 主催者：原発災害情報センター

（福島県白河市）

鈴木正昭さん

（東京都昭島市在住）

8-2 三春町での出来事は公的な教材に載っているの？

文部科学省は、2011年3月に起きた福島第一原発の事故以降、これまで5回（2011年、2014年、2018年、2021年、2024年）、「放射線副読本」を発行してきました。そのなかには、福島第一原発事故に関する国会事故調や政府事故調の報告書に記載されているような、「安定ヨウ素剤」などの重要な教訓を示すキーワード（他の例：「SPEEDI」、「オフサイトセンター」）や、「原子力緊急事態宣言」、「震災（原発事故）関連死」など被害の深刻さを表す情報は、これまで記載されたことはありません。

福島県でも、教育委員会が「放射線等に関する指導資料」や「放射線教育・防災教育実践事例集」などを作成してきました。放射線教育の実践協力校には、三春町の三春小学校や三春中学校も含まれています。その資料には、「三春町に暮らす子どもならではの、持続可能な放射線教育」や「自ら考え、判断し、行動することができる力を身に付けてほしい」など、主体性の育成を重視する記述が見られます。しかし、同様の視点で好事例と言える三春町での「安定ヨウ素剤」配布については、全く記載がありません。

下の資料は三春小学校の令和元年度放射線教育の資料の一部です。

放射線教育 三春町立三春小学校
キーワード：持続可能 ひたむきのこころのかがり カリキュラム・マネジメント

学校テーマ 21世紀をたくましく生きる子どもの育成
～三春町に暮らす子どもならではの、持続可能な放射線教育～

1 はじめに
1 本校の概要
本校は東京電力福島第一原子力発電所より、西に直線距離約48kmに位置している。2011年3月11日、東日本大震災時には、そのさらに西側に位置する郡山市より地震震度小さく（郡山市震度6弱に対し、三春町大町5弱）、町内の建造物や家屋被害も郡山市より小さかった。空間放射線量についても、震災以降約3年経過後で測定されるまでの間、年間量はほぼ変わっていません。県内外へ避難した市民は一部にとまるとともに、その一方で三春町は、避難を余儀なくされた浜通り町村から一時避難場所として数多くの避難を受け入れ、町内各箇所にて仮設住宅を設けました。現在では三春町に住所を移し、第二の故郷として人生を歩まれている方も少なくない。令和元年度現在、避難者として本校に在籍している児童は12名おり、前述のように住所を三春町に移した方々の人数を含めれば、その数はさらに増える。震災直後の平成23年度、三春小学校において行われた行政や町民から多くの協力があがり、関係者の協力で授業式、入学式が行われ、その次の日には給食までも通常通り再開することができた。その後、豊みみ前で野外での活動時間が制限されたが、日々の教育活動に対し教員がきめ細やかな配慮や工夫を凝らしたことで、子どもたちは毎日充実した学校生活を送ることができた。

2 学校テーマに込めた思い
福島県に生まれ育った子どもにとって、放射線教育は必要不可欠な学習内容であると捉え、未曽有の自然災害による被害は想像では無いけれども大々かたが、そのうちの中でも、震災時、知識や経験が不足していたことが調査結果などによる大きな不安につながってしまっことは否めない。
これからの未来を拓く子どもたちは、予測が難しい時代であって一歩一歩確実に歩み、困難に対してたくましく乗り越えることができるように、自ら考え、判断し、行動することが出来る力を身に付けてほしい。そこで、今後放射線教育が持続的に必要になることを踏まえつつ、学校テーマにおいて育たいたい子ども像を明確にした。

令和元年度 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業
三春町立三春小学校

文部科学省
子どもや教員の笑顔、意欲
「安全・安心・健康・学び」の4つの柱を軸に、放射線教育推進事業を実施し、子どもたちの学びの機会を拡大し、地域社会の発展に貢献していきます。

放射線教育
放射線教育とは、放射線に関する基礎知識や放射線の危険性、放射線の利用などについて、子どもたちにわかりやすく伝えること。また、放射線に関する正しい知識や態度を身に付け、放射線に適切に対応できるようにすること。

21世紀をたくましく生きる子どもの育成
～三春町に暮らす子どもならではの、持続可能な放射線教育～

放射線教育指導計画に基づいた実践
学校生活の中で、放射線に関する知識や態度を身に付け、放射線に適切に対応できるようにすること。また、放射線に関する正しい知識や態度を身に付け、放射線に適切に対応できるようにすること。

教科等とのかかわり
特別の教科 道徳
総合的な学習の時間
研究の事例
「放射線教育」や「防災教育」の授業
放射線教育推進事業の実践

◆ 教育委員会の言い訳を批判する！

下に上記資料の右側、緑色部分を書き出しました。

2011.3を振り返ると... 未曾有の災害
当時、数多くの情報が錯綜したが、それら処理、判断するための知識や技能が不足

「未曾有の災害」だったとは言え、三春町は状況を判断して安定ヨウ素剤を配ったのです。不足していたかも知れないけれども、ある限りの知識や技能を用いて、錯綜する情報を処理、判断したので。この事実をまず受け止め、その上で批判的に点検することこそが、次世代の子供を育てるために伝えるべきことです。教育委員会は、町の現実を正確に受け止めようとする姿勢すら失っています。“無能”だったのは東電や政府です。それを隠そうとする文科省や県教委の「指導」に従うことで、結果として三春町の「英断」を貶めてはいませんか。

...このパネルは「福島の村 福島の町」実行委員会発行の冊子10ページを、NPO法人原発災害情報センターが、その資料部分を複製と加工して作ったものです...

「あの日風しもの町で起きたこと」
冊子、パネル 申し込み先

「風しもの村 風しもの町」実行委員会

sakitkgi@yahoo.co.jp